＜先週の説教から＞

『ルカ㊲―彼らの信仰を見て！』

武田真治牧師

詩編　41：11～13　ルカ福音書　5：21～26

今日の聖書箇所、イエス様の前に寝かされたまま運ばれてきた「中風（＝身体の麻痺）の人」を癒やされた出来事は、まさに”奇跡”と呼ぶにふさわしい出来事でした。周りにいた人たちは驚くと共にイエス様の持っておられる力に感嘆したことでしょう。しかし、そのような人たちばかりではなかったことを今日の聖書は一方で報告しています。それが「ところが、律法学者たちやファリサイ派の人々はあれこれと考え始めた。『神を冒涜するこの男は何者だ。』」です。

彼らは17節で「この人々は、ガリラヤやユダヤのすべての村、そしてエルサレムから来た」とあります。この時、まだイエス様はガリラヤ伝道を始めたばかりでした。それなのに、ユダヤ地方や特にエルサレムから来たということは、イエス様の”噂(うわさ)”を聴いて集まって来たということになります。しかも、彼らは病の癒やしのためやみ言葉を聞くためではなく、ただイエス様がどのような人物であり、人々を間違った方向に煽動していないかを調査するために来ていたと言い得ます、それが彼らの役目だった（＝自分たちこそ律法の番人だと考えていましたから）でした。その検査にまさに引っ掛かった点が、癒やしの際にイエス様が使われた言葉『人よ、あなたの罪は赦された』なのでした。

彼らは『ただ神のほかに、いったいだれが、罪を赦すことができるだろうか』と考え、それなのにイエス様があたかも自分が神様のように振る舞っている姿を目の当たりにして、それは神様を冒涜していると考えたのでした（＝この理由だけで当時は“石打ちの刑”に定めることが出来ました）。

ただ、この“神様以外には私たちの”罪”を赦すことは出来ない“という彼らの考えは、実は正しいと言い得るのです。まさにその通りです。しかし、そうであるならば、逆に言えばイエス様が神様であると。神様と同じ力と権威を持っている存在だとも考えることも可能ではないでしょうか？ しかしイエス様の様子や振る舞い、見た目や血筋等から、彼らはそうとは考えられなかったのでした！

イエス様はその彼らに対して『何を心の中で考えているのか。「あなたの罪は赦された」と言うのと、「起きて歩け」と言うのと、どちらが易しいか。人の子（＝イエス様）が地上で罪を赦す権威を持っていることを知らせよう』と言われ、実際に身体の麻痺をも”彼らの目に見える形で”癒やされたのでした。イエス様がこの両方の奇跡を起こす力を持っておられることを示されたのでした。これを見た群衆は「皆大変驚き、神を讃美し始めた」のでした。この群衆の中に、この律法学者たちやファリサイ派の人々も入っていたのでしょうか？ この後の顛末を見ると、どうやらこれでもイエス様を認めることはなかったのでした。せめて、私たちは、キリストに癒され、救われた人の喜びを“目の当たりに”した時、一緒に心から喜べる者でありたい！

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【今週の集会】

＊聖書研究・祈祷会　Ⅰ．3月12日（水）20：00
　　Ⅱ．3月13日（木）10：30

聖書研究：　ローマの信徒への手紙
祈祷主題：　お茶の会奉仕を覚えて
担当者：　（水）相浦　　（木）黒澤
祈りに覚える人：　鈴木さん　　関根さん

【教勢報告】

主日礼拝　　男25　女50　計75
祈祷会　Ⅰ.男3　女2　計5　　Ⅱ.男1　女7　計8
日曜学校　　幼稚科6　小中科6　計12

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【次週礼拝】　3月　16日（日）

聖　書：詩　編　56：9～14
　　ルカによる福音書　5：33～39
説　教:「ルカ㊵―新しいぶどう酒は新しい革袋に」
　　武田　真治　牧　師
讃美歌:294(1)、32、311(1～3)、311(4～6)、441、24(1)

【次週当番表】

司式:金刺長老　奏楽:村上　　礼拝:茨木長老
献金：岩井　岩佐　受付：飯島　吉岡
会堂準備：木村　小杉　冨澤　長田
　　橋本　北條
看板：曾我　　週報：吉岡　　お花：羽倉

【次週集会予定】

礼拝前：・聖書輪読会　・求道者会
礼拝後：・お茶の会　　・牧師と語る会　　・聖歌隊練習
　　・日曜学校教師会・幼稚園理事会
　　・オリブの葉編集委員会

66-10

週　報

2024年度　教会標語

「主につながり、その枝としてひろげて」

２０２５年　　３月　　９日

日本キリスト教団　**上尾合同教会**

牧　師　　武田　真治

〒362-0041　上尾市富士見２－３－33
TEL＆FAX　048－771－6549
http://www.ageo-church.org/